

# 神奈川県私立中入試概況

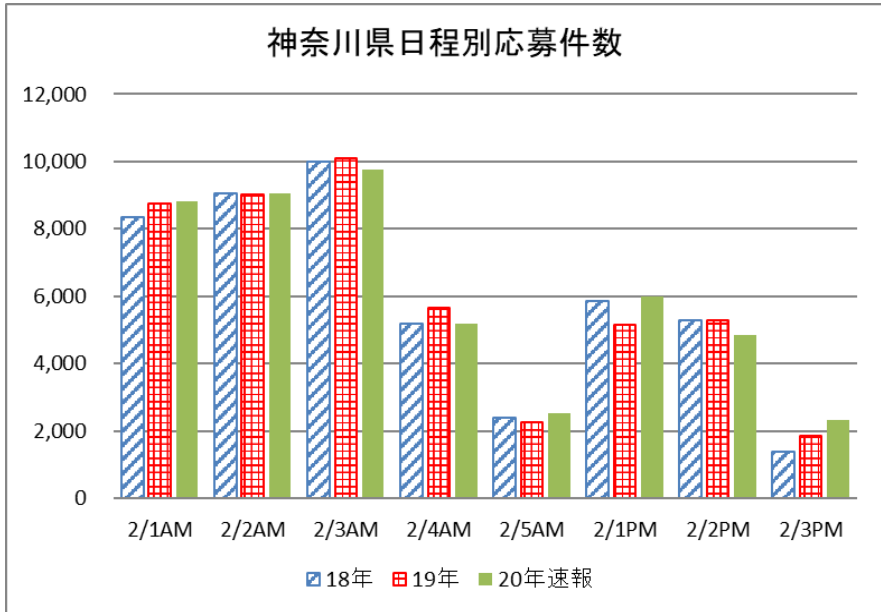
## 1. 概況 応募総数・実受験者数は増加、合格者数は増えず、難化基調

神奈川県内の公立小6児童数は義務教育学校を含んで約 76,800 名で、昨年より約 900 名増えています。2月17日現在の県内の中学入試の応募総数は、国立・私立・公立一貫校の合計で約 51,300 件となっていて、昨年の最終より約 500 件の増加です。入試結果未公表の学校や二次募集実施校があり、最終的にもう少し上乗せされます。実際の受験者数は約 38,100 名で昨年の同時期より 1,000 名の増加、合格者数は約 14,400 名で、昨年同時期とほぼ同じです。合格者数にはコース制の上位コース入試での

入りやすいコースのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校がありますから、「入学できる」合格者数はもっと多くなりますが、応募者数の増加以上に実際の受験者数が増えて(欠席が減って)、合格者数は昨年並みですから、中学受験の拡大基調を背景に、各校が倍率アップによるレベルアップに動いたことがわかります。

上のグラフは今年の県内中学入試の応募者数を日程別に合計して一昨年、昨年と比較したもので、今年速報値です。県内で実施される地方寮制校(早稲田系や日大系)の入試結果は含んでいません。東京 23 区や埼玉県のページでは中学受験の拡大で応募者数が増えているグラフになっていますが、神奈川県では2月1日午後の増加がはっきりわかるものの、他の日程はあまり変動が目立ちません。2月3日午前が最多ですが、昨年より 200 件あまり減っています。これは3日に集中している公立一貫校の応募者が、難化傾向から減っていることや、昨年は3日が日曜、今年は2日が日曜で、横浜共立など、プロテスタント校の一部が、日曜日を避けて入試日程を移動した影響です。

2 番目に応募者数が多いのは 2 日午前、3 番目は 1



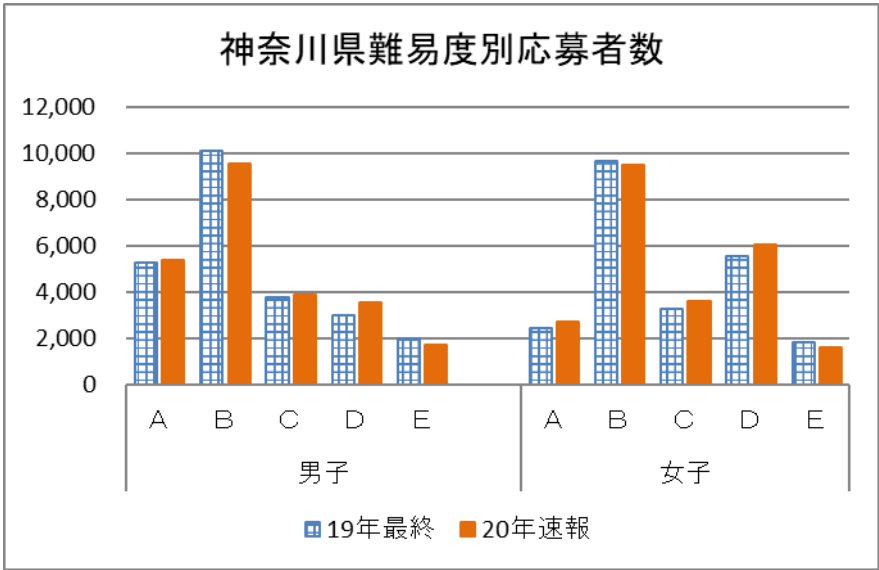
日午前ですが、応募総数はあまり変わっていません。2日午前はこの3年間同じ水準で、1日午前も昨年とほぼ同じ応募者数です。神奈川県は栄光学園と聖光学院の1回が2月2日ですから、都内ほど1日午前に第一志望は集中しませんが、トータルで見ると、入試状況は昨年とあまり変わっていないことになります。また、4日午前、5日午前には応募者が少なく、遅い日程まで挑戦を続ける受験生はあまり多くはありません。

午後入試では昨年応募者が減った1日午後が大きく増えました。昨年の減少は、桐蔭学園が1日午前入試を取りやめたことが大きく影響していますが、今年は桐蔭学園の午後入試が2日から1日に移ったこと、そして湘南白百合が初めての午後入試を新設した影響が大きくなっています。2日午後は桐蔭学園が移ったことなどで応募者が減少しています。神奈川県でも小6の児童数は増えていて、中学受験は拡大基調ですが、例えば昨年11月から相鉄線が新宿まで直通するなど、交通アクセスの改善もあって、東京都心志向が強まっています。このため、県内各校の応募者数の動きは、グラフのように23区内ほど変動が目立つような状況にはなっていません。

次に難易度による志望校選択の傾向を見てみます。右のグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外していません。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

男女ともBグループが最多ですが、昨年より少しずつ減っています。男子はDグループが増加し、Cグループとの差が縮まってきました。女子はもともと男子よりもDグループを選ぶ受験生が多いのですが、こちらは増加が目立っていて、神奈川県の中学受験拡大にDグループ校の受験生増加が寄与していることがわかります。

前述のように都心志向が強くなっていることから、県内でも中学受験拡大基調の割には、全体的にはあまり昨年と変化していないグラフですが、このことは、以前は多かった東京都内から神奈川県内の中学校への受験生も増えていないことがわかります。以下、地域別の入試状況です。県立相模原中等、平塚中等、横浜市立南、市立サイエンスフロンティア、川崎市立川崎は、公立一貫校のページをご覧ください。



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で神奈川県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浅野・栄光学園・慶應湘南藤沢・慶應普通部・聖光学院・洗足学園・フェリス女学院
- B…青山学院横浜英和・鎌倉学園・鎌倉女学院・神奈川大附属・公文国際学園・サレジオ学院・湘南白百合学園・清泉女学院・逗子開成・中央大学附属横浜・日本女子大附属・日本大学(GL)・法政大学第二・森村学園・山手学院・横浜共立学園・横浜雙葉
- C…カリタス女子・湘南学園・桐蔭学園・桐光学園・日本大学(NS)・日大藤沢・横浜国大附属横浜・横浜女学院(国際教養)
- D…神奈川学園・関東学院・関東学院六浦・自修館・相模女子大学・聖セシリア女子・捜真女学校・鶴見大附属(難関)・東海大付属相模・藤嶺学園藤沢・聖園女学院・横須賀学院・横浜国大附属鎌倉・横浜女学院(アカデミー)
- E…アレセア湘南・大西学園・鎌倉女子大学・函嶺白百合学園・北鎌倉女子・聖ヨゼフ学園・聖和学院・相洋・橘学苑・鶴見大附属(進学)・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜翠陵・横浜創英・横浜隼人・横浜富士見丘学園

## 2. 川崎・横浜地区

### <男子校>

聖光学院は、曜日の関係で帰国生入試を1日早めています。応募者数は昨年並みですが合格最低点は少し下がっています。出題が難しかったのでしょうか。2月2日の1回は、以前から後述の栄光学園との間で受験生の流出入が見られ、昨年は栄光学園の応募者が増加、聖光学院は少し減っていましたが、今年は逆に聖光学

院が増えていて、隔年的な変化です。4日の2回は、昨年に続いて今年も応募者が増えました。1・2回の合格最低点は昨年並みで、難度に変化はなかったようです。浅野は、一昨年、昨年と、応募者が少しずつ増えていきましたが、今年は昨年並みです。2月3日入試ということで、中学受験生全体は増えても早じまい傾向から、同校を選びにくいと感じた受験生もいたようです。合格者数は昨年並みですが、合格最低点は少し下がっていて、やや入りやすくなったかもしれません。

サレジオ学院は2月1日のA入試の応募者数が一昨年、昨年とほぼ同じ水準が続いていましたが、今年は少し減っていて、4日のB入試は一昨年からやや増加、昨年、今年は少し減っています。実際の受験者数もA・Bとも少し減っていて、合格者数は昨年並みですから実質倍率は下がっていますが、Aは合格最低点が上がって少し難化、受験生が絞られた結果でした。Bはやや下がっていて、少し入りやすくなったようです。慶應普通部は、昨年、今年と前年並みの応募者数が続いて、安定した人気です。今年は正確には微増でした。合格最低点は公表されていませんが、今年も補欠が出ていて、難度は昨年並みでしょう。

横浜は、併設の高校が共学化で今年は応募者数が激増状態で校舎が足りなくなるのでは、と心配されるくらいの大人気になりましたが、中学募集は男子校のままで、小規模な入試の学校です。一昨年は各回次合計の応募者数が少し減って、昨年、今年は少し増えましたが、高校入試とは関係ない状況です。難度も昨年とあまり変わっていません。武相も小規模な入試の学校です。各回次合計の応募者数は昨年並みで、難度にも特に変化は見られませんでした。

### <女子校>

共学化した聖ヨゼフ学園は男女校をご覧ください。まず横浜市内の神奈川女子御三家から。一昨年まで少しずつ応募者が減っていたフェリスは、昨年は増加しましたが、今年は再びやや減っています。入試広報に力を入れるようになっていますが、東京志向の影響かもしれません。合格者も少し減ったため、難度面ではあまり変わっていないようです。

横浜雙葉も昨年は応募者が増えましたが、今年は減っています。フェリスと同じ動きです。ただ、合格者数は増えていて、実質倍率は少し下がりました。合格

最低点は昨年上がりましたが、今年は一昨年並みに戻っています。少し入りやすくなったかもしれません。横浜共立はプロテスタント校で、昨年はB入試を日曜日を避けて2月3日から4日に移しましたが、今年は3日に戻しました。1日のAは、昨年は応募者がやや減りましたが今年は増えています。フェリスや横浜雙葉とは違う傾向です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、合格最低点も昨年並みです。Bは3日に戻って大幅に応募者が減って一昨年に近い応募者数でした。Bはこのレベルでは珍しい2科で、合格最低点は昨年並みです。A・Bとも特に難度は変わっていません。

神奈川学園は2月2日午前のB入試で2科+英語の選択を新設しました。各回次合計の応募者数は一昨年から大きく減り、昨年も減りましたが、今年は増えていて、人気も反転したようです。増加の中心は1日午後のA午後とB入試で、他校併願前提の受験生が中心です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、B入試は合格最低点が上がって少し難化したようです。他の回次は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。横浜女学院は国際教養とアカデミーの2コース制で、今年は2月1日午後のBと3日午後のEで特選選抜を実施しました。一昨年はコース制実施で各回次合計の応募者数が大幅に増えて、昨年、今年とさらに増加が続いて人気が上がっています。合格最低点は各回次とも昨年並みが中心ですが、少し下がっている回次も見られます。出題難度や得点分布の関係で、難度はあまり変わっていないようです。特選選抜は1ランク上の難度でした。

捜真女学校はプロテスタント校で、以前は日曜日と入試が重なると日程を動かしていましたが、最近は日曜日でも入試を行うようになっていきます。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年とあまり変わらず、昨年は増加、今年は減っています。2月1日午前はあまり変わっていませんから、志望順位が高い受験生は減っておらず、他校併願前提の受験生が他校に流れたようです。実際の受験者数は昨年とあまり変わらず。合格者数は絞っていて、合格最低点は、2日午前のスカラシップは基準を引き上げたようですが、それ以外は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。

川崎市内では、洗足学園が帰国生の入試日程をずらしましたが、曜日の関係によるものです。一昨年は2

月1日の1回の応募者が大きく増えて、2日の2回・5日の3回もやや増えていました。昨年は1〜3回とも減っていて、今年は帰国入試も含めて全回次で応募者が増えています。隔年的な傾向が見られます。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は上がっています。ただ、合格最低点は1回が昨年並みだったものの、2・3回は少し下がっています。出題難度や得点分布の関係もありますが、少し難度が緩和したかもしれません。実質倍率が上がっていますから、ボーダーライン付近が厳しい選抜になったようです。

カトリック校のカリタス女子は帰国入試の日程を変更したほか、2月2日午後入試の科目選択を変更しました。一昨年は各回次合計の応募者が少し増えていましたが、昨年、今年と少しずつ減っています。減少の中心は1日午後の2回で、他校併願前提の受験生の流れが変わったのでしょうか。実際の受験者数も減っていますが、合格者数も減らして、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は特に変わっていません。日本女子大附属は一昨年まで各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年は一昨年並み、今年は大きく増加して、人気の動きが反転しました。合格者数は昨年並みですから、実質倍率は上昇していますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度面では変化が見られません。

### <男女校>

カトリックの女子校だった聖ヨゼフ学園は、今年から国際バカロレアのMYP(中等教育プログラム)を導入した共学校として、新たにスタートします。もともと小規模の入試の学校で、各回次合計の応募者数は共学化で増加しています。ただ、国際バカロレアという、日本では特殊なプログラムを導入することから、多くの受験生が集まるというよりも、「選ぶ人が選ぶ」面が強く、増えても小規模な入試のままです。合格最低点の動きは上下いろいろありますが、総じて難度は昨年並みでしょう。

他校は横浜市内から。公文国際は、各回次合計の応募者数が一昨年はやや減っていましたが、昨年は増加、今年は昨年並みです。実際の受験者数は昨年到现在まで少し増えていて、出願後の欠席は減っています。合格者数はやや減っていて、合格最低点は本稿執筆時点で

公表されていませんが、昨年とあまり変わらない難度だったようです。山手学院は、一昨年は各回次合計の応募者数がやや増加、昨年も増加、今年は小幅ですが減っています。ただ、実際の受験者数は若干増えていて、減った応募者は、欠席承知で早めに後ろの日程まで出願した受験生です。合格者数は2月1日午後の特待選抜や2日午後のBで絞っていて、この両回は合格最低点が上昇、難化しています。1日午前のAと6日午前の後期は昨年並みで、全体的に併願受験生に厳しい入試になりました。

桐蔭学園は、昨年から共学の中等教育学校としての募集になっています。以前の同校は男子の中等教育学校、男子部従来型、女子部理数、女子部普通コースの別学募集で、男子の中等以外は高校入学生と混合される体制でしたが、大改革に着手して現在改革進行中です。受験関係者の中では、一足先に完全共学に移行した高校募集が大人気だったことから、中学募集も注目されています。今年は一昨年新設して多くの受験生が集まったものの、1年で昨年取りやめた2月1日午後入試を再開し、代わって2日午後を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数はやや減っていますが、従来の桐蔭学園タイプの授業展開から、アクティブラーニングを取り入れた形に転換していて、ファン層が変わってきている影響も見られます。昨年は今まで比較的入りやすかった男子部従来型や女子部普通コースの水準では合格が難しいレベルになりましたが、今年の合格最低点も、一部上下が見られるものの、概ね昨年並みで、難度は昨年上がった水準が維持されているようです。

中大附属横浜は、一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が増えていて、特に昨年は大きく増えていましたが、今年は2月1日午前の1回、2日午後の2回の男女とも少し減っています。難化が進みすぎたのでしょうか。実際の受験者数も減っていて、合格者数は昨年並みです。合格最低点は1・2回とも下がっていて、少し入りやすくなったかもしれません。昨年共学化した青山学院横浜英和は、各回次合計の応募者数が、一昨年は共学化で増加、昨年も増加が続きましたが、今年は昨年並み、厳密にはやや減っていて、人気が一段落しました。まだまだ女子の応募者数に比べて男子が少ないことに変化はありません。帰国生入試は合格最低点が下がっていますが、得点分布の関係でしょう。一般

入試は各回次とも昨年並みで、難度に特に変化は見られません。

神奈川大学附属は隔年現象的な変化が見られ、各回次合計の応募者数は一昨年が減少、昨年は増加、今年は順番通り少し減っています。実際の受験者数も同傾向で、合格最低点は2月2日のAと3日のBは昨年並みでしたが、5日のCは少し下がりました。得点しにくい出題だった面もあると思われますが、Cは少し入りやすくなったかもしれません。最後まで粘った受験生が合格したのでしょう。森村学園は、各回次合計の応募者数が一昨年は減っていて、昨年はやや増えましたが、今年は少し減っています。今年の場合、他校併願前提の女子が他校に流れたのかもしれませんが、合格最低点は帰国生入試が上がって、少し難化したようですが、他の回次は昨年並みです。言語技術教育では実績と定評がある学校ですが、少し地味なようで、2020年度から実施するグローバル化対応の新たな取り組みなどが受験生に浸透すると、もう少し違った入試結果になるでしょう。

日吉の日本大学はグローバル対応と難関大学進学を目標とするグローバルリーダーズコース(以下GL)とNスタンダードコース(以下NS)の2コース制です。一昨年、昨年と各回次の合計の応募者数は少しずつ減っていましたが、今年は増加しました。全体的な中学受験拡大が同校の人気を後押ししています。男子の増加が中心の回次と女子の増加が中心の回次が見られますが、合計するとどちらも増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っていて、帰国入試と2月5日のCは昨年並みの合格最低点ですが、それ以外は各回次、GL・NSとも上昇していて、難化した入試でした。

関東学院の応募者数は各回次合計で、一昨年はやや減って昨年は増加、今年は昨年並みです。男女で増減の傾向に違いが見られる年もありましたが、今年は男女、各回次とも昨年とあまり変わらず、安定しています。合格最低点も、回次ごとに小幅の上下は見られますが、難度面でも昨年並みの入試結果でした。系列校の関東学院六浦は、適性検査型入試や英語入試、自己アピール入試を行っています。応募者の大多数は教科型の入試です。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と前年並みでしたが今年は増えています。回次ごとでは小幅な増減がいろいろありますが、全体的に女

子が増えていて人気が上がっています。難度面では昨年とあまり変わっていないようです。

鶴見大附属は難関進学と進学の2コース制で、一昨年までは各回次合計の応募者数が増えていましたが、昨年、今年と少しずつ減っています。昨年の減少は女子が中心でしたが、今年は男子が中心です。横浜創英の新校舎建設で、そちらに受験生が少し流れているのかもしれませんが。今年も進学コース入試での難関進学合格や、難関進学コース入試での進学スライド合格を出していますから、両コースとも難度自体はあまり変化がなかったようです。横浜隼人は2月2日午前午後の入試を3日の午前午後に移しました。各回次合計の応募者数は昨年まで安定していましたが、今年は少し減っています。減少の中心は1日午後の適性検査型入試で、公立一貫校との併願受験生が他校に流れたようです。実際の受験者数や合格者数も少し減っていますが、各回次の難度にはあまり影響はなかったようです。

横浜富士見丘学園は2月4日の入試を5日に移して科目選択の幅を増やすなどの変更がありました。昨年からは男子の募集を行って男女校になっています。昨年はこの効果で各回次・男女合計で応募者が大きく増えました。今年も各回次合計では増えています。男子の増加が大きく、昨年は応募者の男女比が約1:2でしたが、今年は約3:4となっています。難度面では各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。横浜創英は昨年取りやめた2月1日午後の入試を復活、代わって4日を取りやめるとともに、2日午前と3日午前の入試科目を変更しています。一昨年は各回次合計の応募者数が少し減っていましたが、昨年、今年と増えています。今年度から新校舎の使用を開始することも人気の理由の1つです。実際の受験者数も増えていますが、不合格者が少ない入試で、合格最低点は上下いろいろありますが、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

系列校の横浜翠陵は2月2日午後の4回を3日午前に移しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と減っていましたが、今年も減っています。英語選択の入試を実施するなど、グローバル化対応に力を入れています。受験生にはあまり浸透していないようです。横浜創英の新校舎建設も影響しています。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は昨年とあまり変わっていません。合格最低点も各回次ともには



ぼ昨年並みで、難度に変化はなかったようです。橘学苑は小規模な入試の学校です。昨年は各回次合計で応募者が少し増えていましたが、隔年的な変化で今年は減少しました。国立の横浜国大横浜は、一昨年まで応募者数が隔年で増減していて、昨年は減る順番だったのが少し増えていました。今年は減っていて、隔年現象のパターンが1つずれたようです。難度面ではやや入りやすくなったかどうか、といったところでしょう。

次に川崎市です。法政大学第二は、帰国生の入試日程を曜日の関係で変更しただけです。共学化から5年目を迎え、すっかり共学が定着しました。各回次合計の応募者数は一昨年が前年並み、昨年は増加、今年は昨年並みです。共学化時に人気が上がって応募者が増加しましたが、落ち着いた動きになってきました。合格最低点は2回の女子が少し下がっていますが、得点分布の関係でしょう。難度面では各回次、男女とも昨年とあまり変わっていないようです。桐光学園は男女別学を続けています。各回次男女合計では、一昨年前年並みの応募者数で、昨年、今年と増加が続いていますが、昨年も今年も増加の中心は男子です。開校当初から何かと桐蔭学園と比較検討されることが多かった同校ですが、桐蔭学園が別学から共学に移行したことから、桐光学園と桐蔭学園の性格の違いが明確になってきています。男子の増加は、歓迎する受験生が多いのでしょう。合格最低点は帰国生入試の女子と、2月1日の男女が上がりました。少し難化したようです。他の回次は昨年並みで、難度に変化は見られません。

なお、大西学園は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

### 3. 横須賀方面・湘南方面

#### <男子校>

栄光学園は聖光学院1回との間で受験生の流出入が見られます。昨年まで応募者の増加が続いていましたが、今年は厳密には少し減ったものの、昨年並みといってよい応募者数でした。実際の受験者数も少し減っていて、合格者数は昨年並みですから実質倍率は少し下がっていますが、合格最低点に変化は見られず、難度は変わっていません。逗子開成は、各回次合計の応募者数が一昨年、昨年、今年と、厳密には若干減っているものの、ほぼ同じ水準が続いていて、人気は安定しています。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、

合格最低点も各回次ともあまり変わっていません。難度面でも安定した入試でした。

鎌倉学園は、以前は逗子開成との間で受験生の流動が珍しくなかったのですが、一昨年から2月1日午前に入試を行うようになって、併願受験生が1日午後の算数選抜に移って傾向が少し変わってきています。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年は増えていて、今年は少し減り、一昨年並みに戻っています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は変わっていません。藤嶺藤沢は2月1日午後に入試を国算の2科から、4科目から2科目選択、ただし理社のみは不可に変更しました。一昨年は各回次とも応募者が減っていましたが、昨年は1日午後の2回が増加、他の各回次も昨年並みの応募者数で、今年は3日の4回が少し減ったほかは細かい増減はあるものの、概ね昨年並みの応募者数でした。本稿執筆段階では合格最低点がまだ公表されていませんが、難度面では昨年とあまり変わらなかったようです。

#### <女子校>

湘南白百合は、帰国入試を別とすると、長い間1回入試日が続けてきましたが、ついに複数回化に踏み切りました。2月2日午前の一般入試は定員を減らした上で2科の英語有資格者入試を並行して実施したほか、1日午後に算数入試を新設、帰国入試も12月に繰り上げました。1日午後の分、応募者が増えただけでなく、2日午前も応募者が増加、人気が上がりました。合格最低点は2日午前が昨年より上がって少し難化したほか、算数入試は得点率がかかなり高く、この点でも難化した入試でした。フェリスなどの定番の併願校でしたが、この点の性格はあまり変わっていないようです。

鎌倉女学院もフェリスをはじめとする神奈川女子御三家の併願校です。今年は昨年2月3日だった2次を4日に移動しました。もともと、横浜共立Bとの重なりを防ぐための移動で、同校が宗教上の理由から日曜日を避けて昨年は4日だったBを、今年は3日に戻した影響です。2日の1次、4日の2次とも応募者は減っています。1次は、フェリスなど横浜女子御三家の応募者が減少気味であることや、上記の湘南白百合が人気だった影響での減少ですが、2次についてはさらに、全体的な入試の早じまい傾向も、応募者が減る理由です。1次は昨年並みの合格最低点でしたが、2次は下が

っていて、少し入りやすくなったかもしれません。

清泉女学院は2月5日午前的思考力・表現力・総合力を測るアカデミックポテンシャル入試を新設しました。各回次合計の応募者数は、隔年現象的に変化していて、今年減る順番ですが増加しました。アカデミックポテンシャル入試を除くと昨年並みです。実際の受験者数、合格者数もアカデミックポテンシャル入試を除くと昨年並みで、難度もあまり変わっていません。アカデミックポテンシャル入試は性格上難度の評価が難しいものですが、得点率を見ると他の回次よりも少し高めでした。聖園女学院は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月5日に入試を新設しました。一昨年は各回次合計の応募者数が増えていましたが、昨年は一昨年並みで、今年は減っていて、実際の受験者数も同様です。合格者数も少し減っていますが、合格最低点は全体的に少し下がっていて、出題との兼ね合いもありますが、少し入りやすくなったかもしれません。

鎌倉女子大は国際教養コースを新設、在来コースはプログレスコースとした2コース制としました。以前は特進・進学コースの2コース制でしたが、一昨年から特進レベルに統一した募集となっていて、今回は再びコース制を実施しました。以前とは考え方を改め、国際教養の名の通りグローバル化対応を前面に打ち出しています。これに伴って、適性検査型入試や自己PR型の入試も新設しました。各回次合計の応募者数は昨年の6倍以上に大きく増えています。合格最低点は公表されていませんが、プログレスコースは昨年並み、国際教養コースは少し高い難度になったようです。

北鎌倉女子は日本語4技能入試の日程を変更したり、算数1科目入試を1日午後に、算数思考力入試と英語プレゼン入試5日午後に新設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は増えていますが、今年も小規模な入試でした。聖和学院は教科の入試だけでなくスピーチやプレゼンテーション型など、多彩な入試を実施しています。今年の一部の日程で科目の追加・変更がありました。昨年は各回次合計の応募者が減って小規模な入試でしたが今年も同傾向で、難度にも変化は見られません。緑ヶ丘女子は今年も小規模な入試でした。

☆

### <男女校>

慶應湘南藤沢は横浜初等部からの内部進学者が入学するようになったため、昨年からの募集定員が削減されています。昨年は定員削減で敬遠されて応募者が減りましたが、今年は帰国入試の男子がやや減ったものの、女子は昨年並み、一般入試は男女とも増加しました。1次合格者に2次試験を実施する2段階選抜で、もともと高難度ですから、難度はあまり変わってはいけません。日大藤沢は、一昨年は2月1・4日の1・2回とも応募者が少し減っていて、昨年も1回は少し減り、2回は一昨年並みでしたが、今年は1回は昨年並み、2回は増加していて、男子が増えています。実際の受験者数も同傾向ですが、1回は合格者を絞り、2回はやや増やしたものの、受験者数の増加には対応していませんから、全体的に厳しくなっています。難度面も1・2回ともやや難化したかもしれません。

湘南学園は各回次合計の応募者数が一昨年は減っていて、昨年は2月1日午前に動画事前提出・論述型のESD入試を新設、この入試に限らず他の回次も応募者が増えました。今年ESD入試を含めても減っていて、隔年現象です。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みで、実質倍率は緩和しました。合格最低点はあまり変わっておらず、2月3日午前のCは少し上がっていて、受験生は減っても絞られた入試になっています。横須賀学院は、各回次合計の応募者数が一昨年は前年並み、昨年は少し増えて、今年はまとまって増えました。中学受験の拡大とともに、人気が上がっていることがわかります。各回次とも増えていますが、男子の増加が女子より目立っています。実際の受験者数、合格者数とも増えていますが、合格最低点は各回次で細かな上下が見られ、得点分布の影響が見られます。難度は各回次とも昨年並みだったようです。

アレセア湘南は小規模な入試の学校です。プロテスタントの学校なので、今年日曜日を避けて昨年2月2日午前午後だった2回を3日午前午後に移しました。一昨年、昨年と、小幅ながら各回次合計の応募者数は増えていましたが、今年微減です。各回次の難度も特に変わっていません。国立の横浜国大鎌倉は、今年2月2・3日の2日間入試です。一昨年の一般入試は男女とも応募者がやや減っていましたが、昨年は男子が一昨年と同数、女子は増えました。今年男子

がやや減って、女子は昨年並みです。2日間入試で他校と併願しにくいこともあって、志望順位が高い受験生が中心の入試です。小規模な入試で、難度もあまり変わっていないようです。

#### 4. 県央～県西方面

##### <女子校>

聖セシリアは特に入試に変更はありません。一昨年は各回次合計の応募者数が大きく減りましたが、実際の受験者数は減っておらず、あらかじめ遅い日程まで出願しておく受験生が減っただけでした。昨年は増加、今年は昨年並みで、実際の受験者数も昨年並みでした。合格最低点も昨年並みで、難度に変化はなかったようです。相模女子大は適性検査型入試を2月2日午前から1日午前に、昨年新設した1日午前のプログラミング入試を1日午後に移すなどの変更がありました。一昨年、昨年と、各回次合計の応募者数は減りましたが、欠席が減ったため、実際の受験者数はあまり変わりませんでした。今年は昨年並みの応募者数で、実際の受験者数はやや増えています。合格者数は昨年並みで、難度面はほとんど変わっていません。

地域は離れますが函嶺白百合は、2月1日午後の入試を1科目に、4日から3日に移した4回も1科目に変更したり、思考力も選択できるようにしましたが、今年も小規模な入試でした。2科の入試の合格最低点

は昨年より上がっていますが、難度は特に変わっていないようです。

##### <男女校>

東海大相模は、一昨年各回次合計の応募者数が増加、昨年は一昨年並み、今年は再び増加して人気が上がっています。町田の日大第三などに押されていた時期もありましたが、中学受験の拡大も人気を後押ししています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は逆に絞っていて、実質倍率は上がりました。難度面では少し難化したようです。自修館は昨年、2月1日午前に適性検査型の探究入試を新設、2月5日にD入試も追加しました。一昨年は各回次合計の応募者が減っていて、昨年も新設入試を加えても少し減っていましたが、今年は探究入試やD入試が浸透したようで、各回次とも昨年並みか、増えていて、人気が上がってきました。実際の受験者数、合格者数も増えていて、難度面では昨年とあまり変わっていないようです。

地域は離れますが、相洋は一昨年、各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年、今年と少しずつ増えています。中学受験が県西地区にも拡大した結果です。各回次ともあまり多い受験生がいるわけではないので、合格最低点は上下いろいろありますが、得点分布の影響でしょう。難度としてはあまり変わっていないと思われます。